

第9回 2017年2月16日(木)

第9回一流塾では、講師に木村美代子氏（アスクル(株) BtoCカンパニー 生活用品事業本部 兼 LOHACO 事業本部 執行役員 事業本部長 CMO）と前田新造氏（㈱資生堂 相談役）を、懇親会の特別ゲストには絹谷幸二氏（日本芸術院会員、画家、文化功労者）をお迎えしました。なお第1講義師は、当初ご登壇予定の岩田彰一郎氏（アスクル(株) 代表取締役社長兼 CEO）が当日発生した急用のため、急遽、木村氏にご登壇頂きました。



【講師 木村氏】

第1部では、『アスクルのイノベーション』と題して木村氏が講義を行いました。講義の冒頭、高度なデジタル化が進む世界では、大企業ですら事業基盤が盤石ではなくなるという危機感を経営者たちが持っているということをお話し頂きました。アスクルでは、こうした時代の変化をチャンスととらえ、ビッグデータを共有したオープンイノベーションの取り組みであるECマーケティングラボをスタートさせ、今では日本を代表する企業が多数参画し、各社は生活者起点でデザインされた商品を次々に LOHACO を通じてお客様に提供して高い成果を上げていることを、実例と共にご紹介頂きました。そのうえで、今後は、BtoB や BtoC といった垣根を越えた第2世代 e コマースの No.1 を目指して、ロボットや AI を活用しながらコスト削減と新たな付加価値の創造に取り組んでいることをお話し頂きました。最後には、経営は「最初に意志ありき」であることや「勝てる仕組みを作る」ことが重要であることなどを、塾生への激励の言葉としてお伝えいただきました。塾生からは、「常に新しいことにチャレンジする姿勢は成長する企業には必須だと改めて感じた」、「経営の仕事は勝てる仕組みを作ることという言葉に感銘を受けた」といった声が上がりました。



【講師 前田氏】

第2部では、『魅力ある“人づくり”～輝き続ける組織をつくるために～』と題して前田氏が講義を行いました。冒頭では、資生堂の歴史や社名の由来、企業理念などをご紹介頂きました。その後、2005年に社長に就任された際に掲げられた「3つの夢」のうち「魅力ある人」で組織を埋め尽くすこと」の具体的な取り組みとして、ベトナム工場のリーダー育成などのエピソードをご紹介頂きました。また国内で女性社員の活躍を推進してきた企業ならではの新たなチャレンジやその成果についてもお話し頂きました。そのうえで、「人」はコストではなく、最も大切なキャピタルである」と塾生に語って頂きました。講義の最後には、リーダーとして大切なこととして、「60%即決主義」で決断してまずはやってみることも、また知識や才能も重要だが、熱意と理想だけは誰にも負けないものを持つことなどをお話し頂きました。過去に経験した不遇の時代のエピソードなどもご披露いただき、塾生からは、「人はコストではなく最も大切なキャピタルという言葉に感銘を受けた」、「60%即決主義で、決断とは一旦やってみるための仮説というお話しにとっても納得できた」などの声が上がりました。

懇親会では、一柳塾長による乾杯のご挨拶を頂いた後、特別ゲストの絹谷氏から『アートなさじ加減』と題して卓話を頂きました。絹谷氏からは、まず、絵とは物としての価値ではなくその中にある思想や考え方に価値があるということをお話しいただきました。そのうえで、今は自分の感覚に基づき行動することが大事であり、いかに複眼的に物事をとらえ、人とは違う考え方や見方ができるかが大切であることを、古事記や花の絵と関連づけながら、芸術家ならではの切り口でお伝え頂きました。その後の懇親会では、各テーブルで講師・ゲストと塾生との盛んな議論が続きました。

懇親会後の塾生有志による塾長を囲む放談会では、絹谷氏にもご出席頂きました。講義では聞けなかったことや、一流の画家ならではの観察力、複眼的思考などについて次々と質問が上がり、熱い議論と共に塾長、講師、塾生の交流が深夜まで続きました。



【特別ゲスト 絹谷氏】



懇親会風景



放談会風景

